

◎評価シート（平成 30 年度）

記入日 平成 31 年 3 月 13 日

平成 29 年度実施した協働事業について、提案団体と事業担当課において、下記の内容により互いに評価を行うことで、意思の疎通を図り、今後の事業実施等に活かすため、ご活用ください。

団体名 (記入者名)	子どもNPOはらっぱ (川端 智代)	事業担当課名 (記入者名)	学校教育課 (花元 英夫)
事業名	子どもの声を聴き共有するラウンドテーブル		
事業開始年度	平成 27 年度～		
提案の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民自由提案部門 <input type="checkbox"/> 市設定テーマ部門		

1. 事業概要

(1) 事業目的・目標

子どもたちが安心、安全に暮らせる、笑顔あふれるまちづくりを実現するために子どもたちの心に寄り添い、声を聴き、提案団体と行政の情報共有の関係づくりをすることで、子どもの現状や子どもの周りで起きている問題・社会課題の解決を図っていく。

(2) 事業費の負担額

団体	0 円
市	0 円
合計	0 円

(3) 実施した内容

12 月 26 日、3 月 27 日に子どもNPOはらっぱ、こども家庭課、生涯学習推進室、学校教育課の関係者が集まり、ラウンドテーブルを開催した。

2. 事業の評価

※評価点（3段階）

3	2	1
できた	概ねできた	できなかった

(1) 協働性

評価項目	評価点 (3段階)		
相互に理解し合い、対等な関係が築けたか。	3	②	1
事業全般を通じて十分に協議を行い、行政と十分な意思の疎通が図れたか。	3	②	1
責任の所在や役割分担は、適切であったか。	3	②	1
相互に相手の強みを事業に活かすことができたか。	3	②	1
それぞれ単独で実施するより、より効果を生み出すことができたか。	③	2	1

(2) 実現性・有効性

評価項目	評価点 (3段階)		
協働の形態（委託・共催・事業協力等）は適当であったか。	3	②	1
事業を実施するのに、十分な実施体制をとっていたか。	3	②	1
関係する多様な人たちを巻き込めたか。	3	②	1
予算は妥当だったか。	3	②	1
参加者、受益者は意図した人たちだったか。	3	②	1
参加者、受益者の満足度は得られたか。	3	②	1
予定した成果は上がったか。	3	②	1
地域のまちづくりやコミュニティ形成に役立ったか。他の地域のモデルとなり、普及したか。	3	②	1

(3) 実施してよかった点・どのような点にメリットを感じたかなど

団体 にとって	子どもに関わる課と情報共有の関係づくりをすることで、子どもと保護者の現状や子どもの周りで起きている課題について話すことができた。話すことで関係づくりにも繋がっている
市 にとって	子どもと関わる民間の団体と情報を供することで、今後の連携について検討することができた。
市民 にとって	平日の乳幼児のおやこ、放課後や休日の子どもの声、関わる市民団体を通じて行政に届けることができた。 関係団体及び関係課で情報共有することで、それぞれが担当する事業、取組の充実に繋がった。

(4) その他、評価点の理由や課題・その改善点など

<p>学期ごとの開催を予定していたが、日程調整が十分にできず、年2回の開催となってしまった。 子ども NPO はらっぱが行う様々な事業を通じて見えてくる子どもの現状や課題を行政の担当課と情報共有する意義ある機会であり、有効な情報交換ができた。 今後は子どもの現状や社会課題を解決する糸口を見い出せる話し合いに発展できればと考える。</p>
---

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (  提案事業継続  提案事業以外 )  休止または終了  
 市が単独で実施  団体が単独で実施  
 その他 ( 下記参照 )

※実施事業を今後、どのように活かし発展させるのか。また、団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容など補足事項を記入してください。

子どもたちや保護者に関わる日常について、市の担当課と市民で共有できる場があることは、課題解決に必要な事業であると考えている。今後は委託事業だけでなく、自主事業を通しての課題なども含め、個人情報等の守秘義務はありますが、できるだけ情報を共有し、子どもたちの環境整備のために、さらに貢献していきたい。また、子どもの事を理解できるおとなを地域に増やすために提案した事業であるので、「子どもの声を聴くおとな養成講座」の共催として発展させていきたい。(団体)